

#### 2.2.4 線量評価のまとめ

現状の設備の運用により、気体廃棄物放出分で約 0.03mSv/年、敷地内各施設からの直接線及びスカイシャイン線の線量分で約 0.58mSv/年、放射性液体廃棄物等の排水分で約 0.22mSv/年、構内散水した堰内雨水の処理済水の H-3 を吸入摂取した場合の敷地境界の実効線量は約  $3.3 \times 10^{-2}$ mSv/年、構内散水した 5・6 号機滞留水の処理済水の地表に沈着した放射性物質からの  $\gamma$  線に起因する実効線量は約  $4.2 \times 10^{-2}$ mSv/年となり合計約 0.91mSv/年となる<sup>注)</sup>。

注) 四捨五入した数値を記載しているため、合算値が合計と合わない場合がある。